

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2022年8月10日
【四半期会計期間】	第93期第2四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	古林紙工株式会社
【英訳名】	FURUBAYASHI SHIKO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 古 林 敬 碩
【本店の所在の場所】	大阪府中央区大手通三丁目1番12号
【電話番号】	06(6941)8561（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長兼経営企画部長 米 島 明
【最寄りの連絡場所】	大阪府中央区大手通三丁目1番12号
【電話番号】	06(6941)8561（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部長兼経営企画部長 米 島 明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 第2四半期 連結累計期間	第93期 第2四半期 連結累計期間	第92期
会計期間	自2021年 1月1日 至2021年 6月30日	自2022年 1月1日 至2022年 6月30日	自2021年 1月1日 至2021年 12月31日
売上高 (百万円)	7,708	7,880	16,147
経常利益 (百万円)	4	81	185
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	4	44	136
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	255	47	329
純資産額 (百万円)	8,569	8,461	8,430
総資産額 (百万円)	17,095	16,734	17,007
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.37	40.41	123.25
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.35	40.25	122.73
自己資本比率 (%)	46.4	46.2	45.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	209	1,098	259
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	285	147	508
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2	608	203
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	1,126	1,564	1,177

回次	第92期 第2四半期 連結会計期間	第93期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 6月30日	自2022年 4月1日 至2022年 6月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	36.32	17.96

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による事業への影響については、今後も注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループにおける当第2四半期連結会計期間末の資産は16,734百万円となり、前連結会計年度末に比べ273百万円減少しました。これは、主に現金及び預金で392百万円増加、受取手形及び売掛金で前連結会計年度末が休日であった影響等により371百万円減少、投資有価証券で時価下落等により338百万円減少したことによるものであります。当第2四半期連結会計期間末の負債は8,273百万円となり、前連結会計年度末に比べ304百万円減少しました。これは主に長短借入金で559百万円減少、支払手形及び買掛金で324百万円増加したことによるものであります。当第2四半期連結会計期間末の純資産は8,461百万円となり、前連結会計年度末に比べ31百万円増加しました。これは、主に投資有価証券の時価下落によるその他有価証券評価差額金で235百万円減少、為替換算調整勘定で171百万円増加、非支配株主持分で74百万円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は7,880百万円(前年同四半期比2.2%増)となりました。日本では、受注状況が改善し、新しい受注を獲得したことで売上が増加しました。中国では新型コロナウイルス感染症対策としての上海市のロックダウンにより約2ヶ月間企業活動が制限されたため、売上高は伸び悩みましたが、円安による為替評価も影響しております。利益面では、日本では売上高の増加および原材料価格高騰の影響があったものの固定費が減少したこと、中国では売上高が伸び悩む中で原価低減活動を進めたことにより、営業利益は70百万円(前年同四半期は営業利益4百万円)、経常利益は81百万円(前年同四半期は経常利益4百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は44百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益4百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

日本

当社および国内連結子会社においては、売上高は6,562百万円(前年同四半期比3.4%増)となりました。受注状況が改善し、新しい受注を獲得したことが影響しております。セグメント利益は売上高の増加および原材料高騰の影響があったものの固定費が減少したことにより、185百万円(前年同四半期比32.4%増)となりました。

中国

当社グループにおいては、セグメント間の売上高を含め売上高は1,798百万円(前年同四半期比7.1%減)となりました。新型コロナウイルス感染症対策としての上海市のロックダウンにより約2ヶ月間企業活動が制限されたため、売上高は伸び悩みましたが、円安による為替評価も影響しております。売上高が伸び悩む中で原価低減活動を進めましたが、セグメント損失は38百万円(前年同四半期はセグメント損失60百万円)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、1,564百万円となりました。これは、前第2四半期連結累計期間と比べ、438百万円（前年同四半期比38.9%増）増加しております。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益81百万円、減価償却費222百万円、売上債権の減少による資金の増加476百万円等により、1,098百万円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出197百万円等により、147百万円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入金の純減少額569百万円等により、608百万円の支出となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載しました「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、104百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,776,820	1,776,820	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	1,776,820	1,776,820	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	1,777	-	2,151	-	381

(5) 【大株主の状況】

2022年 6 月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アダチメディカルレンタル リース	大阪市中央区内平野町 3 - 2 - 10	83	7.51
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋 1 - 4 - 10	82	7.43
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内 2 - 1 - 1	60	5.43
古林 敬碩	横浜市栄区	59	5.37
レンゴー株式会社	大阪市北区中之島 2 - 2 - 7	42	3.80
古林 昭子	神奈川県鎌倉市	41	3.67
古林 雅敬	東京都小平市	27	2.43
丸三証券株式会社	東京都千代田区麹町 3 - 3 - 6	26	2.32
今 年明	東京都足立区	26	2.31
古林 楯夫	神奈川県鎌倉市	25	2.26
計	-	470	42.53

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年 6 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 671,200	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 1,100	-	
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,098,500	10,985	-
単元未満株式	普通株式 6,020	-	-
発行済株式総数	1,776,820	-	-
総株主の議決権	-	10,985	-

【自己株式等】

2022年 6 月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 古林紙工株式会社	大阪市中央区大手 通 3 - 1 - 12	671,200	-	671,200	37.78
(相互保有株式) 金剛運送株式会社	横浜市戸塚区上矢 部町2040 - 3	1,100	-	1,100	0.06
計	-	672,300	-	672,300	37.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）および第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、ネクサス監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,228	1,620
受取手形及び売掛金	4,803	4,433
商品及び製品	609	639
仕掛品	297	317
原材料及び貯蔵品	208	232
その他	226	213
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	7,371	7,453
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	1,692	1,717
土地	1,689	1,689
その他（純額）	951	913
有形固定資産合計	4,332	4,319
無形固定資産	136	188
投資その他の資産		
投資有価証券	4,169	3,830
退職給付に係る資産	246	233
その他	753	710
投資その他の資産合計	5,168	4,774
固定資産合計	9,637	9,281
資産合計	17,007	16,734

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,678	4,002
短期借入金	1,283	660
1年内返済予定の長期借入金	592	582
未払法人税等	28	73
賞与引当金	26	25
その他	1,247	1,256
流動負債合計	6,853	6,597
固定負債		
長期借入金	1,041	1,115
退職給付に係る負債	107	101
資産除去債務	3	3
その他	572	457
固定負債合計	1,724	1,676
負債合計	8,577	8,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,151	2,151
資本剰余金	1,410	1,414
利益剰余金	3,209	3,224
自己株式	941	929
株主資本合計	5,830	5,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,634	1,399
為替換算調整勘定	313	485
退職給付に係る調整累計額	8	19
その他の包括利益累計額合計	1,939	1,865
新株予約権	7	7
非支配株主持分	655	729
純資産合計	8,430	8,461
負債純資産合計	17,007	16,734

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
売上高	7,708	7,880
売上原価	6,607	6,711
売上総利益	1,102	1,168
販売費及び一般管理費	1,098	1,098
営業利益	4	70
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	52	55
その他	15	12
営業外収益合計	69	69
営業外費用		
支払利息	10	8
為替差損	17	13
その他	42	37
営業外費用合計	69	58
経常利益	4	81
税金等調整前四半期純利益	4	81
法人税等	35	43
四半期純利益又は四半期純損失 ()	31	38
非支配株主に帰属する四半期純損失 ()	35	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	4	44

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	31	38
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	357	235
為替換算調整勘定	149	255
退職給付に係る調整額	15	10
その他の包括利益合計	224	9
四半期包括利益	255	47
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	268	30
非支配株主に係る四半期包括利益	13	77

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4	81
減価償却費	215	222
受取利息及び受取配当金	53	57
支払利息	10	8
売上債権の増減額 (は増加)	189	476
棚卸資産の増減額 (は増加)	120	29
仕入債務の増減額 (は減少)	255	255
その他	251	117
小計	240	1,074
利息及び配当金の受取額	52	56
利息の支払額	11	9
法人税等の支払額	72	23
営業活動によるキャッシュ・フロー	209	1,098
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	80	33
定期預金の払戻による収入	46	33
有形固定資産の取得による支出	231	197
有形固定資産の売却による収入	0	-
投資有価証券の取得による支出	1	1
その他	19	51
投資活動によるキャッシュ・フロー	285	147
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	21	632
長期借入れによる収入	400	400
長期借入金の返済による支出	342	337
自己株式の純増減額 (は増加)	-	0
配当金の支払額	28	27
非支配株主への配当金の支払額	3	3
その他	8	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	2	608
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	44
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	50	387
現金及び現金同等物の期首残高	1,177	1,177
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,126	1,564

【注記事項】

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、代理人に該当する取引については、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、純額で収益を認識する方法に変更しております。また、顧客との契約における対価に変動対価が含まれている取引については、変動対価の額に関する不確実性が解消される際に、解消される時点までに計上された収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、変動対価を取引価格に含めております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計基準を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の利益剰余金の当期首残高および四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

（追加情報）

（連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用）

当社および国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行およびグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産および繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

（新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）（新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する会計上の見積り）に記載しております新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
運送費	314百万円	324百万円
給与手当	323	316
賞与引当金繰入額	9	5
退職給付費用	3	5

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)
現金及び預金勘定	1,226百万円	1,620百万円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	100	56
現金及び現金同等物	1,126	1,564

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 1 月 1 日 至 2021年 6 月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 3 月30日 定時株主総会	普通株式	28	25.00	2020年12月31日	2021年 3 月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 8 月 6 日 取締役会	普通株式	28	25.00	2021年 6 月30日	2021年 9 月17日	利益剰余金

当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 3 月30日 定時株主総会	普通株式	27	25.00	2021年12月31日	2022年 3 月31日	利益剰余金

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 8 月10日 取締役会	普通株式	28	25.00	2022年 6 月30日	2022年 9 月16日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	中国	合計
売上高			
外部顧客への売上高	6,347	1,361	7,708
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	573	575
計	6,349	1,934	8,283
セグメント利益又は損失()	140	60	80

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	80
セグメント間取引消去	0
その他の調整額(注)	77
四半期連結損益計算書の営業利益	4

(注) その他の調整額は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	日本	中国	合計
売上高			
印刷紙器	5,822	1,255	7,078
プラスチック包材	725	-	725
その他	14	63	77
顧客との契約から生じる収益	6,562	1,318	7,880
外部顧客への売上高	6,562	1,318	7,880
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	480	480
計	6,562	1,798	8,359
セグメント利益又は損失（ ）	185	38	147

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	147
セグメント間取引消去	0
その他の調整額（注）	77
四半期連結損益計算書の営業利益	70

（注） その他の調整額は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（会計方針の変更）に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の測定方法を同様に変更しております。

なお、当該変更による当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの売上高および利益に与える影響は軽微であります。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）
(1) 1株当たり四半期純利益	3円37銭	40円41銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	4	44
普通株主に帰属しない金額（百万円）		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	4	44
普通株式の期中平均株式数（千株）	1,105	1,099
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	3円35銭	40円25銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額（百万円）		
普通株式増加数（千株）	5	4
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

2022年8月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（1）中間配当による配当金の総額.....28百万円

（2）1株当たりの金額.....25円00銭

（3）支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年9月16日

（注） 2022年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 8 月 8 日

古林紙工株式会社

取締役会 御中

ネクサス監査法人

大阪府大阪市

代表社員 公認会計士 長野 秀則
業務執行社員

代表社員 公認会計士 小関 亮
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている古林紙工株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、古林紙工株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。